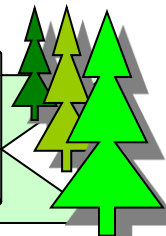




街路樹



いわきの子どものために



支援室より 次年度に向けて

今年度、指導主事が3名減っても、研修の質を落とさないようにすべく、研修調査室においては「扉の向こうへ」を合い言葉に、次のことに留意して研修を構築してきました。

- ・各校の教育活動や学校運営に資することができるように。
- ・研修した内容を、研修者の熱い思いや意欲によって研修会場から各校に発信できるように。

次年度は、それに加え、次の3つの機能についてより一層の充実を図っていきます。

(1)「研修センター」としての機能

- 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの授業改善に向けての研修やプログラミング教育など課題に対応する研修の充実を重視し、教育現場における教育課題解決に向けた研修の充実を図る。
- 県教育委員会から示された指標を基に明確なイメージを持って「教職員のライフステージ」を意識し、中堅教諭等資質向上研修を位置づけるとともに、研修内容を構成する。

(2)「カリキュラムセンター」としての機能

- 調査研究委員会の成果を研修講座に反映させるなど、普及の仕方を工夫するとともに、学校における教育活動の実践例を幅広く集積・分析し、学校現場により直結した調査研究を行う。
- アーカイブコーナーを始め図書資料室の充実にも努め、広く広報するとともにその活用を活性化させる。

(3)「OJT支援センター」としての機能

- 各学校のニーズに応じた「現職教育のテーマ設定」「研修の推進」などの校内研修の支援に当たる。

研修調査室は、「いわきの子どものために、いつも「いわきの教職員」の皆さんとともに学び合っていきたいと考えています。



教育支援室は、今年度より、いじめ・不登校などの困難な状況を抱える子どもたちへの支援や、障がいのある子ども一人ひとりのニーズを踏まえた支援をより充実させるため、教育相談体制等の充実や関係が連携してチームとしての支援機能の向上を図っていけるようにするために設置されました。

スタッフは、指導主事3名と委嘱している相談員、SC、SSWですが、主に①教育相談、②不登校対策③特別な支援を必要とする児童生徒の支援等を行ってきました。

次年度は、今年度の成果を生かし次のことを特に重点的に行っていきたいと考えます。

(1)教育相談について

- 保護者や学校からの相談に対して、相談員に加え指導主事、SC、SSW等が必要に応じてチームで対応していく。

(2)不登校対策について

- 不登校の未然防止策のために、指導主事とSCが学校訪問をして、不登校傾向にある児童生徒の関わり方を助言する。

(3) 特別支援教育に関すること

- 検査データを基にした配慮すべき点を、授業参観を通して具体的に授業に生かせるように助言していく。

以上、学校のがんばりを支えるために、教育支援室のスタッフがそれぞれの専門性を生かし、可能な限り学校のニーズに応えられるようチームとして関わっていきたいと考えます。

平成29年度教育実践研究発表大会より



今年度の実践研究発表大会は、午前の部では調査研究委員の方々の発表を中心に、午後の部では、文部科学省初等中等教育局教育課程課石田有記専門官の講演を開催いたしました。頂いた感想の中から一部をご紹介します。

教師力UPの業

授業力を高めるために活用したい。

研究団体発表

体験型ブースは、インパクトが強く参考になった。

2018・1・13(土)
文化センター
&
アリオスにて

講演会

カリキュラムマネジメントについて、具体的にイメージすることができた。

文部科学省 石田有記氏

幼・小・中・高というつながりを意識することが大切だとわかった。自分たちができているか確認していきたい。

論文発表

読書は、学力向上の基礎になることを再確認できた。

